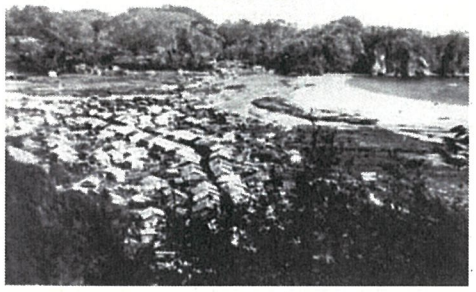
「地域の安全安心促進基本計画(津波)策定」
～ハードとソフトが一体となった施策の推進　田老町での取り組み事例～

－河川課河川海岸担当－

1. 津波に関する背景

三陸沿岸は津波の常襲地帯であり、過去に幾度となく津波による大規模な被害を受けております。



昭和８年三陸津波　発生前

→

発生後
（家屋は押し流され、大量の砂が堆積しています）

突然ですが、この数字をご存知ですか？

Q:　津波に関する数字「**2035**」と「**99**」　（「**2035**」は「**30**」と読み替えても可です）

A:今後発生が想定されている宮城県沖地震、「**2035**」年まで(今後「**30**」年以内)に発生する確率は「**99**」%と言われています。

Memo：地震津波はいつ発生するか分かりませんので、当然確率どおりに発生するわけではないのですが、「９９」％という数字、地震津波発生が逼迫していることが感じ取れます。

Q:H15.5.26 発生　宮城県沖地震に関する数字「**28**」　←少し難易度が高いかもしれません。

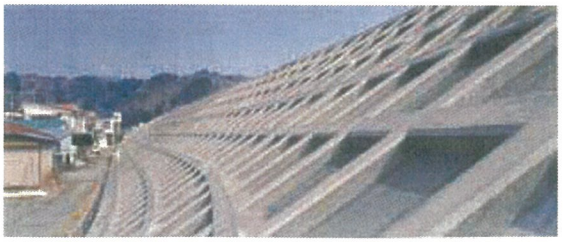
A:地震発生時、迅速な避難をした人の割合、「**28**」%(大船渡市の例:東大社会情報研究所調べ)

Memo：三陸沿岸は過去に甚大な被害を受けている、いつ地震津波が発生してもおかしくない状況、そのような中で震度６弱の地震が発生。
津波防災の基本は「**揺れたら避難！**」なのですが、実際はなかなか難しいようです。

2. 従来の津波対策

我々海岸管理者は、津波対策として防潮堤水門・陸閘などの海岸保全施設の整備を進めてきました。

ちなみに本県の海岸保全施設整備率は**69.6**%です。(H16.3 月現在)



(写真)田老海岸整備状況　T.P.+10.0m

3. 今後の津波対策

従来の津波対策（ハード整備）の課題として、

- 施設整備には「長期間」を要する（言い換えれば、効果発現まで時間がかかる）
- 今後発生する地震津波について、時期・規模は誰にも分からないことから、整備済みの防潮堤を越波することもあり得る。

そこで、これからの津波対策としては、地域住民、海岸利用者に対して**"迅速な避難"**を意識してもらう必要がある、つまり、**従来の「ハード整備」+「ソフト対策」の融合**が必要となります。

4. 今後の津波対策（取り組み事例の紹介）

ハードとソフト一体となった施策の推進を狙い、田老町において「安全安心促進基本計画（津波）」策定を行いました。

計画策定を進める中で、地域住民参加によるワークショップを開催し、図上訓練、現地確認を行いました。以下に簡単な流れを記します。

①図上訓練状況

・水門、陸閘、避難場所を記載した白図を準備。

・事務局が設定した被害条件のもと、避難行動を想定。

（今回はS8三陸津波をベースに「冬」「夜」に発生としました。）

・健常者、避難の際に補助を必要とする人、水門閉鎖作業後避難する人、など条件は多岐に渡ります。

②現地確認状況

・図上訓練の成果を、実際に現地を歩いて確認します。

③成果発表

・①、②の検討結果をとりまとめ、発表してもらいました。

" 防潮堤乗り越し階段が急、狭い、使いづらい"

" 指定されている避難場所より、こっちの方が近いし安全！"

など、「ハード」「ソフト」両面について意見をいただきました。

本計画書には、図上訓練を通じて把握した「地域が必要としていること」に対して、「具体的な対応方針」を記載しました。キーワードは**"だれが、いつまでに、どのようにして"**

（詳細については、河川課HPをご覧下さい。 http://www.pref.iwate.jp/~hp0605/index.html）

また、参加者の皆さんは、地震津波発生時における避難行動を具体的にイメージしたことにより、**「迅速な避難」の重要性を再認識**できたと思います。

5. おわりに

今年度は種市町において計画策定を進めております。（今回は久慈地方振興局、町役場が主体となって計画策定を進めております。）

今後は他沿岸市町村においても計画策定を進めていく予定としておりますので、その際はご協力をお願いいたします。